

94 翠幕晚來褰

●●●○

95 遇境虛生白

●●○○●●

96 遊談暗入玄

○○●●◎

※脚韻は下平声「先」韻、韻字は「鳶、涓、褰、玄」である

*大系本では「時」とあるが、ここでは刊本にある「暗」を採る

訓読

89 瘦せては雌めんどりを失ふ鶴つるに同じ

90 飢うゑては雛すうを嚇おそす鳶たぐに類たぐへり

91 壁やぶ 墮おれて奔溜はせりうを防まぎ

92 庭 溼ぬにして濁涓だくせんを導まく

93 紅輪 晴後に轉まじ

94 翠幕 晚來 褰かく

95 境に遇あひては 虚 白を生まじ

96 遊談しては 暗みく玄に入る

口語訳

89 〈今の私は〉(夫婦仲睦まじい)鶴が雌鳥を失ったときと同じように痩せ衰えてしまった。

90 空腹のため、鷓鴣えんすうを襲おう鳶たぐ(=鷓鴣たぐ)のように卑ひしくなった。

91 崩れ落ちた(建物の)壁は、(屋根を伝って)激しく滴り落ちてくる雨水をせきとめてはくれるが